

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『ルカ ⑩ — マリアが歌う讃美歌』

武田 真治 牧師

詩編 35:9-10 ルカ福音書 1:46-56

このルカによる福音書の特徴は、他の福音書と比べて、たくさん“歌”が収録されている点で、素晴らしいですね。そして、それらの歌の中でも、今日のマリアさんが歌った讃美歌こそ「マニフィカート」と呼ばれ、昔から多くの人達に愛されて来た讃美歌です。その理由は勿論、マリアさんが歌っているからですが、このルカ福音書で歌われた、最初の“讃美歌”であるという点もその理由の一つになっています。

実は、マリアさんよりももっと早く讃美歌を歌う機会＝チャンスがあった人物が2人いました。最初の方はザカリヤです。彼は天使から、洗礼者ヨハネの誕生を教えられ、「その子は主の御前に偉大な人となり。イスラエルの多くの子らを主のもとに立ち帰らせる」と告げられます（＝マリアさんと同じように）。その時点で『神を賛美します』と歌っても良いところでしたが、彼は『何によって、それを知ることができるのでしょうか。わたしは老人です』とすぐに受け止めることができずして。故に彼の口が利けなくされてしまったのでした。故に歌うことさえ出来なくなったのでした。

次の人物はエリザベトさんでした。マリアが天使から“エリザベトの不思議な身ごもり”を伝え聞いて、マリアさんは親戚でもある彼女のもとへ『おめでとう』という“祝福の挨拶”をしようと訪れたのでした。その「マリアの挨拶をエリザベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった」ことで、マリアこそ祝福された女性だと気が付き、エリザベトは「聖霊に満たされて、声高らかに」語ったのでした。まさにこの時こそ讃美歌を歌う絶好の時だったのです。ただ、彼女が語った言葉は『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています』です。明らかに讃美の言葉ですが、これは“讃美歌”とは言えないのでしょうか？

実はこの言葉はマリアさんを褒め称えています。神様を賛美してはいません。故に“讃美歌”とは言えないのです。

讃美歌はあくまで神様（そしてイエス様と聖霊）を賛美する歌であり、だからこそ礼拝の中で用いられるのです。

ルカ福音書に最初に記されている“讃美歌”である『マリアの賛歌』は「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」と始まります。ここで大切な点は、「わたしは」ではなく「わたしの魂は、わたしの霊は」である点です。これは頭で考えるよりも、もっと自分の深い所から讃美の音が“湧き上がって来る”様子を表しているのです。まさに讃美歌は私たちの奥底から湧き上がる感謝に突き動かされて出て来るものではないでしょうか。そしてこの時のマリアさんの感謝は「身分の低い、このはしためにも（神様が）目を留めてくださったから」にあったのです！私たちにも通じる、分かる“讃美の心”ではないでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月17(水) 20:00
II. 4月18(木) 10:30

聖書: ハイデルベルグ信仰問答
祈祷主題: 会堂管理委員会を覚えて
担当者: (水) 小草 (木) 田嶋
祈りに覚える人: 相浦さん 青島さん

【教勢報告】

主日礼拝 男22 女58 計80
祈祷会 I. 男7 女3 計10 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚園科6 小中科10 計16

【次週主日礼拝】 4月21日(日)

聖書: 詩編 132:10~18
ルカによる福音書 1:57~70
説教: 「ルカ⑩ — 救いの角を起こされた」
武田 真治牧師

讃美歌: 361(1)、32、58、182、521、
83(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 須田 礼拝: 金刺長老
献金: 小草 長村 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 小杉 富澤 長田 橋本
北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・日曜学校教師会
・幼稚園理事会 ・オリブの葉委員会

2024年 4月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>